

栃木県立宇都宮高等学校いじめ防止基本方針

本校では、すべての教職員が、「いじめほどの子どもにも、どの学校においても起こり得る」という事実を踏まえ、生徒の尊厳を守りながら、いじめのない学校づくりに向けて学校をあげて取り組むこととする。

いじめ防止等の対策のための組織として、「いじめ対策委員会」を組織し、保護者、地域、関係諸機関と連携しながら、「いじめが起きにくい・いじめを許さない学校づくり」に向け、様々な教育活動を通じた未然防止対策を行うとともに、いじめが疑われる事態を把握した際には、解消に向け組織的に対応する。

特に、重大事態が発生した場合には、県教育委員会に報告し、連携しながら対処するとともに、所轄の警察署等の関係機関に通報し、援助を求める。

本基本方針には、別添「『栃木県立宇都宮高等学校いじめ防止基本方針』実践のための行動計画」を設け、教職員はその計画に基づいて基本方針の実践に努めて行く。

1 組織的な対応に向けて

- 「いじめ対策委員会」（全・通）を組織し、様々な教育活動を通じた未然防止対策を行うとともに、いじめが疑われる事態を把握した際には、特定の教職員で問題を抱え込まず、早期解決に向けて組織的に対応する。
- 生徒及び保護者に対して、いじめ対策委員会の存在や活動が明確に捉えられるよう努める。
- いじめを始めとする生徒指導上の諸問題に関する校内研修を実施し、全ての教職員の共通理解を図るとともに、具体的対応力の向上を図る。

2 いじめの未然防止に向けて

- 生徒一人一人に対して、豊かな心を育み、道徳性を身につけさせ、生徒が自主的にいじめ問題について考え、議論することなど、いじめ防止に資する活動等を通して「いじめを許さない心」や「いじめを起こさない力」を育成し、いじめに発展する可能性のある日常のトラブルの解決が図れるよう、計画的な指導を実践する。
- 生徒一人一人が、意欲を持って学校の様々な教育活動に取り組めるよう「集団づくり」や「授業づくり」への取組を充実させるなど、いじめのない学校づくりに向けた指導の充実を図る。
- 生徒に対して、傍観者とならず、いじめを止めさせるための行動を取る重要性を理解させるよう努める。
- 教職員の言動が、生徒を傷つけたり、他の生徒によるいじめを助長したりすることがないように、教職員の人権感覚を磨くとともに、指導に細心の注意を払う。
- インターネットのもつ利便性と危険性をしっかり理解させながら、情報機器の適切な使い方について徹底的に指導する。

3 いじめの早期発見・事案対応に向けて

- いじめは、大人が目が届かない時間や場所で行われたり、遊びやふざけあいを装って行われたりするということを、教職員一人一人が強く意識する。
- 生徒の声に耳を傾け、生徒の行動を注視し、生徒の些細な兆候であってもいじめの可能性を疑い、見逃さないようにする。
- アンケートや個人面談の実施等により、いじめの疑いがあることを認識した場合には、決して特定の教職員が抱え込むことなく、組織的に対応する。
- 日頃から生徒との信頼関係を深め、生徒がいじめを相談しやすい体制を整える。
- 日頃から保護者との信頼関係を深め、保護者との情報共有に努める。
- 生徒、保護者、地域からのいじめに関する相談や通報の窓口を明確にし、周知に努める。

4 いじめの解消に向けて

- いじめられた生徒を徹底的に守り通す。
- いじめられた生徒や保護者の立場に立って対応する。
- いじめを発見、またはいじめの相談を受けた場合には、いじめ対策委員会に報告し、組織的な対応につなげる。
- いじめた生徒については、行為の善悪をしっかりと理解させるとともに反省を促し、二度といじめることのないよう、しっかり指導する。
- いじめられた生徒といじめた生徒への対応は、教職員全員の共通理解、保護者の協力、関係機関・専門機関との連携の下で取り組む。
- いじめを見ていた生徒に対しては、自分の問題として捉えさせ、いじめは絶対に許されない行為であり、決して見逃さずに報告しようとする態度を育成する。
- いじめの解消については、単に謝罪やいじめの行為が止んだことをもって安易に判断することなく、いじめられた生徒の状態を注視し判断する。また、いじめが解消した後も、いじめられた生徒、いじめた生徒の双方を継続的に指導・援助し、良好な人間関係の構築に努める。